

『たっち』は、みんなの心や輝きへの「タッチ」を通して、「たちかわ」の地域・家庭・学校が手をつないで、生涯を通じた学びを推進したいという思いを込めて付けた名前です。

たっちの発行は年3回です。次号の発行は令和7年2月10日です。



●今号の主な内容
2面 … 「立川市中学生平和学習派遣事業」で各校の代表の中学生が広島市を訪問しました／アールブリュット立川2024
3面 … 未来につなぐ部活動改革・市立中学校部活動の地域連携・地域移行の取組／令和7年度以降に市立中学校で使用する教科書を採択しました
4面 … 砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設整備事業の進捗について／立川市の歴史と文化財
編集・発行／立川市教育委員会
〒190-8666 立川市泉町1156-9
☎042(523)2111(市役所代表)
立川市ホームページ
<https://www.city.tachikawa.lg.jp/>



7月13日(土)・14日(日)、姉妹都市交流事業の一環として、立川市と大町市の中学生の代表が交流しました。大町市との交流は平成3年度に始まり、平成27年度以降は、生徒会を中心とした中学生の相互訪問を実施しており、今回でちょうど10年目となりました。今年度は立川市が開催都市となり、市内のさまざまな地域資源を生かして交流を深めました。

図指導課指導係・内線2498



立川市キャラクターくるりん／大町市キャラクターおおびよん



1日目 (対面式～バーベキュー・ビーチ遊び～プラモデル作り～両市のPR)

1日目、対面式では酒井市長や立川市・大町市の両教育長から「いつもより積極的に」というアドバイスをいただき、早速交流を深めていました。くるりんも登場し、場を和ませてくれました。

対面式後はタチヒビーチに移動し、バーベキューやビーチ遊びを通して交流しました。



次に、コトブキヤ本社を訪れ、プラモデル作りを通して交流しました。初めてプラモデルに触れる生徒もいましたが、製作から展示、撮影までみんなで楽しみました。ウドラも応援に駆けつけてくれました。

夜は、互いの市について紹介しました。それぞれの市について、さまざまな観光スポットを動画で紹介したり、自分が住んでいる地域の名産や特色を詳しく説明しました。

©UDOLLAND

2日目 (バスケットボール交流～解散式)

2日目は立川第六中学校の体育館でバスケットボールを通じて交流しました。地元のプロバスケットボールチーム・立川ダイスの選手やユースの中学生選手も参加し、共に交流を深めました。

最後の解散式では、代表生徒が「一緒に時間を共有することの大切さ」や「これからの両市の親善の必要性」について話しました。



中学生サミットに参加した生徒たちが交流を通して学んだことは、それぞれの学校にて報告・還元していきます。また、令和7年1月25日(土)に開催する「立川教育フォーラム」の中でも報告する予定です。

「立川市中学生平和学習派遣事業」で 各校の代表の中学生が広島市を訪問しました



平成30年度から「立川市中学生平和学習派遣事業」として市内中学校の代表生徒9人を広島市へ派遣しています。

この事業は、中学生自らが平和についてより深く考え感じるとともに、在籍校の生徒や市民の皆さまに広く発信することにより、市の平和の取り組みの充実を図ることを目的としています。

今年度は8月18日(日)から20日(火)までの2泊3日で広島市を訪れ、平和関連施設の見学や被爆された方や関係者から話を伺いました。

1日目は、ガイドの方の案内のもと原爆ドームや平和記念公園内の各施設を見学した後、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真・資料を展示した平和記念資料館を見学し、夕食後には今回同行した酒井市長と懇談しました。

2日目の午前中は、爆心地にもっとも近い小学校のため多くの犠牲者を出した本川小学校の平和資料館を、ガイドの方から話を伺いながら見学し、同じく被爆時の校舎の一部が保存され、

家族の消息を尋ねる「伝言」が残されている袋町小学校の平和資料館を見学しました。また、午後は世界遺産である宮島の厳島神社を訪れ、歴史と文化に触れました。

3日目は、当時1歳5か月で被爆された方から、被爆者に対する差別や原爆症の話など貴重なお話を伺いました。

参加した中学生からは「平和について願うだけではだめで、しっかり事実を伝える必要があると思った」、「両親を亡くした子どもたちが教室で励み合ったとの話を聴いて、支え合っていくことが大切だと感じた」、「生き残った人たちにもその後の苦しい生活があったことを知った」などの感想が寄せられました。

今回の平和学習派遣事業については、生徒の在籍校において発表を行うとともに、令和7年1月25日(土)に開催する「立川教育フォーラム」で、参加した中学生が事業の成果を発表します。



原爆ドームを背に記念撮影



原爆死没者慰霊碑での献花の様子

☎高松学習館 ☎(527)0014

幸学習館

かわせみカフェ

12月14日(土)

午前10時～
午後3時

東京学芸大学の学生さんが企画し、「世代間交流」をテーマに「かわせみカフェ」を開催します。主催は幸学習館運営協議会。「音楽」をテーマに工作(楽器作り)や昔遊び、ゲームなどを行います。お気軽にお立ち寄りください。直接会場へ。



昨年度の「かわせみカフェ」の様子

☎幸学習館 ☎(534)3076

アール・ブリュット立川2024 ～高松からの風～

アール・ブリュット立川実行委員会と高松学習館との共催で、「アール・ブリュット立川2024～高松からの風～」を9月4日(木)から9月16日(月)まで〔9月9日(月)は休館日〕開催しました。

アール・ブリュットとは正規の美術教育を受けていない人々が、伝統や社会の潮流に流されることなく独自の方法により制作した作品を指します。

著名な作家だけでなく、地域の福祉作業所に通われている方々の作品やこれまでに作成

したポスターなどを、高松学習館のロビーや廊下、階段などのスペースを使い多数展示し、多くの方に鑑賞いただきました。

併設の高松図書館では期間中アール・ブリュット関連本のミニ展示コーナーを設置するとともにリサイクル本を配布しました。

また、9月8日(日)にワークショップ「木片とワイヤーのオブジェ」を、10月11日(金)には見学会「東地下道アート鑑賞」を実施しました。



「アール・ブリュット～高松からの風～」は平成29年から毎年高松学習館で開催しています。



ワークショップで作ったみんなの作品です。

☎高松学習館 ☎(527)0014

教育委員の活動を紹介します

令和6年5月から9月までの教育委員の活動は下表の通りです。

活動実績(令和6年5月～9月)

5月11日(土)	立川市立中学校PTA連合会定期総会
5月14日(火)	第9回教育委員会定例会
5月24日(金)	東京都市町村教育委員会連合会定期総会
5月27日(月)	第10回教育委員会定例会
6月14日(金)	第11回教育委員会定例会
6月17日(月)	学校訪問(三中)
6月25日(火)	学校訪問(大山小)
6月27日(木)	第12回教育委員会定例会 第1回総合教育会議
7月1日(月)	学校訪問(幸小)
7月11日(木)	民間屋内プール(金田スイミングクラブ)活用水泳授業視察
7月12日(金)	学校訪問(十小) 第13回教育委員会定例会
7月25日(木)	第14回教育委員会定例会
8月1日(木)	ヤングケアラー講習会
8月2日(金)	立川市立公立学校管理職研修会
8月9日(金)	第15回教育委員会定例会
8月23日(金)	立川市立公立学校管理職研修会
8月26日(月)	教育委員会視察研修(東日本少年矯正医療・教育センター)
8月28日(水)	第16回教育委員会定例会
9月12日(木)	第17回教育委員会定例会
9月26日(木)	第18回教育委員会定例会



東日本少年矯正医療・教育センター視察研修の様子



三中への学校訪問の様子

☎教育総務課庶務係・内線2465

電子黒板を整備しました

立川市は、国の特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用して、令和5・6年度の2か年で市立小中学校全校に電子黒板を整備しました。令和2・3年度に整備した児童・生徒一人1台タブレットPCと併せて活用することで、児童・生徒にとってより分かりやすい授業や主体的・対話的な深い学びを進めることができます。

☎学務課管理係・内線2510、2511

未来につなぐ部活動改革
市立中学校部活動の地域連携・地域移行の取組

立川市では、国や東京都の計画等に基づき、「立川市立中学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」を策定し、部活動の地域連携・地域移行に向けた取組を段階的に進めていきます。

部活動の現状と課題

- ◆生徒数は緩やかな減少傾向で、部活動数も減少。→入りたい部活動がない場合も。
- ◆約30%の運動部で専門的な技術指導のできる顧問が不在。→専門的な指導を受けられない場合も。

部活動の地域連携・地域移行とは？

地域連携	地域移行
学校で運営・実施。地域人材(部活動指導員や部活動外部指導員)の活用や合同部活動など。	部活動に代わる新たな地域クラブ活動。地域の多様な団体が、学校と連携しながら運営・実施。
【メリット】・顧問の先生の異動等に関わらず、継続的に専門的な指導を受けられることが期待されます。 ・通学する中学校の部活動になかったスポーツ・文化芸術活動に参加できるようになることが期待されます。	

計画の推進目標

- 生徒が地域でスポーツ・文化芸術活動に継続的に親しめる環境を構築していきます。
- 令和7年度末までに全市立中学校で、地域や学校の実態に応じて、休日の部活動から段階的に地域連携・地域移行の取組が行われていることを目指します。

計画はこちらからご覧になれます。▶



地域連携の取組事例(立川第五中学校卓球部)

休日の部活動で中央大学の学生が技術指導を行っています。生徒からは「年齢が近いので、聞きやすい」、顧問の先生からは「自分は卓球の競技経験がないので非常に助かる」との声が聞かれました。



☎指導課指導係・内線2485

部活動の指導員になりませんか？

教員に代わり、実技指導などを行う部活動指導員(市の会計年度任用職員)を募集しています。



詳細はこちらからご覧になれます。

令和7年度以降に市立中学校で使用する教科書を採択しました

市教育委員会は、8月28日(水)に開催した教育委員会定例会において、令和7度から令和10年度まで市立中学校で使用する教科書を右表のとおり採択しました。

採択にあたっては、校長・副校長、保護者・市民を委員とする選定検討委員会や教員を部会員とする調査研究部会による検討、また、教育委員会による協議を重ね、公平・公正な採択に努めました。

※書写、第2学年の社会(地理的分野)、社会(歴史的分野)、地図、第3学年の音楽(一般)、音楽(器楽合奏)、第3学年の美術、保健体育、技術・家庭の教科用図書については、令和6年度以前に給与済である「採択変更前の発行者の旧版教科用図書」を令和7年度も引き続き使用します。

☎指導課指導係・内線2488

立川市立中学校教科用図書採択発行者一覧

種目	発行者
国語	光村図書出版株式会社
書写	光村図書出版株式会社
社会(地理的分野)	株式会社帝国書院
社会(歴史的分野)	株式会社帝国書院
社会(公民的分野)	株式会社帝国書院
地図	株式会社帝国書院
数学	東京書籍株式会社
理科	東京書籍株式会社
音楽(一般)	株式会社教育芸術社
音楽(器楽合奏)	株式会社教育芸術社
美術	光村図書出版株式会社
保健体育	株式会社大修館書店
技術・家庭(技術分野)	東京書籍株式会社
技術・家庭(家庭分野)	東京書籍株式会社
英語	東京書籍株式会社
道徳	光村図書出版株式会社

砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設整備事業の進捗について

令和7年度の供用開始に向けて、砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設の整備を進めておりましたが、本年4月に打設を行った1階床スラブ部分のコンクリートの強度不足が判明したことから、原因究明と対応策を検討するために工事を一時休止しておりました。

その後、受注者による調査の結果と対応の方向性が明らかとなりましたので、工事再開に向けた説明会およびその後の現地見学会を8月に開催し、参加者からのご意見、ご質問を踏まえて慎重な協議を行ってまいりました。

受注者から、工事工程の詳細のほか、技術面や財務面を含めた状況の説明やその裏付けとな



1階床スラブ解体工事の様子

る資料等の提示を受け、工事の完了に向けての確実性を市として認めることができたため、9月17日(火)から工事を再開いたしました。建物工事は令和7年9月末に完了予定です。



完成後のイメージ

詳細、最新の情報はホームページにて更新してまいります。引き続き、安全に配慮し工事を進めてまいりますので、ご協力をお願いします。

☎砂川学習館係 ☎(535)5959

立川市の
歴史と
文化財

55

「普濟寺版」五部大乘経の刊経と伝来



写真1 「普濟寺版」「大方等大集経」と文書箱

有するなど、市内屈指の名刹として知られています。

普濟寺は中世、多摩地域における学問・信仰の道場として、その中心的な役割を果たしていました。それを示すものに「普濟寺版」の開版と刊経事業が挙げられます(写真1)。普濟寺では、開創して間もない貞治2(1363)年から応永7(1400)年の約40年間、「普濟寺版」五部大乘経の刊経事業を展開していました。五部大乘経とは、大乘の教えを説いた五部の経典の総称のことで、「大方広仏華嚴経」・「大方等大集経」・「魔訶般若波羅蜜経大般若経」・「大般涅槃経」・「妙法蓮華経」の計二〇〇巻で構成されます。「普濟寺版」は、版木を普濟寺に置く旨の刊記が見られる(「大方等大集経」巻第三十)ことからそのように呼ばれましたが、現在、版木自体は失われ、華嚴経・大集経・大般若経の3經典だけが伝わっています。残る涅槃経と蓮華経の2經典が現存しないのは、当初五部大乘経二〇〇巻の刊経を目的として始められたものの、応永7年の大般若経二〇巻をもつて事業そのものが打ち切られたため、この2經典はそもそも開版時点で未刊だったと考えられています。こういった事情がありつつも、普濟寺の刊経事業は武蔵国でも最古とされ、研究史上でも早くから注目を集めてきました。仏典としての書誌学的重要性はさることながら、普濟寺の歴史や文化を示す点において、大変貴重な文化財といえるのです。

また、「普濟寺版」は立川の歴史、ひいては多摩地域の歴史を紐解く上でもきわめて重要な史料とされています。例えば、「普濟寺版」の經典にはほぼ経文の36行ごとに經典名・巻数・帖数のほか、刊経事業を支えた多くの助縁者や寄付者の人々の名前が在所の地名とともに刷り込まれているのですが、その地名は多摩一帯から埼玉県西部に至るまで広く及んでいることがわかります。

ます。さらに、現存する「普濟寺版」の巻頭のほぼすべてに「鶴岡八幡宮寺」の墨印があり(写真2)、巻末奥書には永享5(1433)年3月23日付で「惣奉行」の「前陸奥守憲直」が鶴岡八幡宮に「普濟寺版」を奉納したとする識語(来歴)があることも注目されます(写真3)。奉納者の「前陸奥守憲直」は上杉憲直と呼ばれる人物ですが、彼は関東管領上杉氏の庶流であり、関東における室町幕府の統治機関・鎌倉府で活躍しました。特に鎌倉公方足利持氏の側近として著名で、室町幕府に反抗的であった持氏が関東管領上杉憲実と対立して永享10(1438)年に挙兵すると(永享の乱)、持氏方の大将として室町幕府および上杉憲実の軍勢と戦っています。この永享の乱が勃発するわずか5年前、持氏政権において、鶴岡八幡宮の作事・造営等をつかさどる鶴岡八幡宮惣(総)奉行であった憲直は、何らかの経路で「普濟寺版」を入手し、これを鶴岡八幡宮に奉納したようです。

以来、「普濟寺版」は長く鶴岡八幡宮に伝来してきましたが、慶応4(1868)年に明治新政府が神仏分離令を出したことで廃仏毀釈運動が全国で起き、その結果として、「普濟寺版」は流出しました。一部は蒐集家の蔵書として奇跡的に残り、それらは現在、東洋文庫・大東急記念文庫・京都大学附属図書館等が所蔵しています。また、普濟寺も散逸した「大方等大集経」の一部を回収することができ、こちらは現在、寄託を受けた立川市歴史民俗資料館で保管しています。

この「普濟寺版」の「大方等大集経」を含めた新指定の文化財は12月1日(日)まで、歴史民俗資料館企画展「立川の文化財―新指定された普濟寺の宝物―」において展示公開しています。ぜひ会場までお越しください。

☎歴史民俗資料館(生涯学習推進センター文化財係) ☎(525)0860